

# ベトナム子供基金通信

NO.8

1998/10/5

ベトナム子供基金

〒113-8642

東京都文京区本駒込 2-12-3

アジア文化会館内

TEL:03-3946-4121(代)

FAX:03-3946-7599

ベトナム青葉奨学会

QUY HOC BONG LA XANH

C/O TRUNG NHAT NGU DONG DU

43D/46 HO VAN HUE PHU NHUAN

HO CHI MINH VIETNAM

TEL:84-8-8477359 FAX:84-8-8477527

## タオダンから報告書が届きました

今年2月5日発行の「ベトナム子供基金通信」第7号で、ストリートチルドレンの支援のために献身的に活動するベトナムの青年達にご支援を、と皆様に呼びかけました。その後、6月13日の朝日新聞都内版で紹介されたこともありまして、9月18日現在、合計2,557,352 円の浄財が集まりました。(従いまして、ベトナム子供基金は来年度も引き続きタオダンを支援することになりました。)そして、1月22日と、8月5日に各3,000米ドル(約400,000円)を、青葉奨学会のグエン・ドク・ホウエさんを通じて送金いたしました。5月18日付けでタオダンの代表グエン・バン・ホンさんから、礼状と報告書が届いておりますので、以下にご紹介いたします。

ホーチミン市、1998年5月18日

ベトナム子供基金 殿

子供達、及びタオダンのスタッフを代表して、ベトナムの路上の子供達に対する日本の恩人の皆様のご支援にお礼を申し上げます。

財政的に非常に困難な状況にある今、ご援助をいただけたことは、私どもタオダンにとりましては、たいへん大きな意味のあることです。スタッフは子供達の援助活動に集中することができました。この4ヶ月の各方面の活動について以下にご報告いたします。2軒の家を借りたこと、食費、文字、職業教育を行ったこと、子供を家族の元に返したこと、路上生活の子供の緊急医療、通院、路上での食事配給、お楽しみ会を行ったこと、子供達の仕事の元手、スタッフ費など、差し迫った問題も解決できました。

私と、スタッフの健康状態がよくなかったため、また、様々な問題を抱えているため、このご報告が大変遅くなったことをお詫び申し上げます。どうぞ、お許しください。タオダンの活動もまだ発展途中にあり、行なわなければならないことも増えました。内容の改善、資金の調達など…。しかし、まだ専門的知識が不足しており、訓練、学習を続けなければなりません。他方、行政当局や他の社会組織との関係もあり、そちらでも時間を取られますのでなかなか思うように行きません。

この報告書の中にご不明の点がありましたら、どうぞ御遠慮なく御連絡ください。ベトナム子供基金の皆様、再度お礼申し上げます。皆様のご支援のお陰で、現在の不安が軽減されました。

今後も貴会にご支援を続けていたさたくお願い申し上げます。皆様のご健康と、貴会の益々のご発展をお祈り申し上げます。

代表 NGUYEN VAN HUNG

## 4ヶ月間の活動報告 (1998年1月から4月)

### 1. 社会状況

現在、経済状況は非常に悪く、企業倒産などにより、多数の失業者が出ている。消費も低迷し、加えて、猛暑と水不足により、農作物の収穫にも悪影響が出ている。そのため、多くの人々が仕事を求めて、農村から都市部にやって来ている。

政府も、路上生活の子供達に関心を寄せており、各関連組織を通じて調査を行っている。

### 2. ホーチミン市における路上生活の子供達の状況

この4ヶ月、クリスマス以後、正月に続き、4月30日にはサイゴン解放記念日があった。毎年この時期に政府は市内の秩序安定を維持するために取り締まりを行う。そのため、地方から市内に来て路上生活をしている人々、子供達もこの期間は、一時的にいろいろな場所に散って生活する。

活動の担当者の報告によると

“収容政策により、子供達の数は変動している。家族の元に帰った子供達もいる。家族がなく、一人で路上生活している子供たち及び家族とともに路上生活をしている子供たちが増えた。特に、地方から家族とともにホーチミン市に出てきた子供が増えた。子供達は、新聞売り、宝くじ売り、物乞いなどで生活しているが、市内の中心部に集中している。ほとんどの子供達は生きるための仕事に時間を使っている。9月23日公園にはヘロイン売買のために子供達を利用している者がおり、大教会周辺では年かさの子供達を対象に違法行為を行う危険があり、既に何人かは大人達により違法行為に引きずり込まれたり、やくざの手先にされたりしている。また、女の子の中には捕まって、組織的な売春を強要されている子もいる。”

“市内、1区のファン・ゲー・ラオ通り周辺は、外国人観光客の相手の安宿、ホテル、レストランなどが集中している地域であるため、生きる糧を求めて集まってくる子供達が非常に多い。ほとんどの場合、お金を手に入れると将来ことは考えず、トランプで賭をしたり、煙草を吸ったり、無駄に使ってしまう。男の子も女の子同様、目先の金欲しさに性の対象にされる危機にさらされている。”

### 3. タオダンの活動

**路上活動:**タオダンの教育スタッフは、毎日、朝、昼、晩、各地域を回っている。現在までに、各グループは子供達とのよい関係を作ってきた。子供達は路上学校に参加したり、悩みがあるときはスタッフに相談したり、助けを求めて来たりする。また、日曜日には、タオダン公園や動物園でリクレーションを行う。毎回、2カ所で約60人の子供達が参加する。この活動は子供達に楽しみを与えるだけでなく、ほかの子供達や、スタッフ達とのいい関係を作るのに役立つ。また、この活動により、スタッフは多くの新しい子供達を見つけることができ、子供達をより理解し適切な時期に援助することができる。

**臨時宿泊所(事務所):**ここにやってくる子供の数はかなり多い。子供達は友達に教えられてここを知って来る。路上の子供達の収容政策が始まると、それを逃れて、路上より安全な場所を求めて来る。子供達は危険な状態にあり、生活環境を変える必要がある。特に女の子の場合、安全な場所、衣服、衛生管理、遊びなど大人の助けが必要である。スタッフは子供達とともに解決方法を探している。この間、多くの家族が子供を捜す手助けをし、子供を家に帰すことができた。(例えばタン君は長年行方不明だった)

**事務所:**この4ヶ月、事務所に出入りする子供、寝泊まりする子は非常に多かった。「安全の家」が一時的になくなっていたので。)そのため、スタッフの日常生活にも多少支障が生じた。スタッフは事務をこなしながら、子供達の家を探したり、路上の活動に出たりしなければならなかった。この間、まだ継続的な財政の見通しが立たないため、非常に不安定な状態だった。事務所も「安全の家」もすぐに崩壊してしまいそうな状態にある。



路上の子供達に配るお菓子の袋詰めをする子供達

**安全の家:** 1997年12月、テト前、売却したいので家を返すようにと所有者から言われていた。家を買収する資金がないため、子供達は一時的に事務所に移ったり、他の機関に移ったりした。この時は非常に混乱した状態にあった。1998年3月に、「安全の家」のための家を借りることができた。現在、平均12名の子供達がおり、時に15人から17人になる。

**兄弟の家:** 年長の7人の子供達は、いい方向に成長している。それぞれ自分の生活費を賄うことができる。収入を得る以外に勉強したり、小さい子供達の世話をする活動を行っている。現在、5人は事務所でスタッフと共に、また2人が小さい子ども達の世話をするために「安全の家」に住んでいる。

**作業所:** チャン・バン・ダンからの6人と、路上生活からの4人が職業教育を受けている。アン先生の熱心な職業教育、ボランティアのクー先生の指導、精神的な支えのおかげでいい状態を維持できている。

**タオダンの店:** この4ヶ月6人が働いた。サンタクロースがプレゼントを届けるように、クリスマス用品及び、テト用品の販売、サービスにより、収入を得られるよう非常に努力した(収入は7,500,000ドン、82,350円)。消費低迷という社会情勢にもかかわらず、店での支出をなんとかまかなえるだけの収入があった。

\* 訳注 1米ドル=12,290ドン 1米ドル=135円とする 以下同様

#### この4ヶ月間に

—のべ800人以上の子供達が、日曜日の2カ所のレクリエーションに参加

レクリエーションの他、栄養補給になるような食事をさせたり、泳ぎに行ったりして、既にタオダンに出入りしている子供達と知り合える機会を作った

—旧暦1月1日から5日までのお正月行事

・路上生活をしている子供達を訪ね、お年玉を配る。約200名

・ハン・トゥエン公園で202名へプレゼント配布。(青葉奨学会、ホーチミンプラスチック協会からの寄付)

・事務所での行事: 映画鑑賞、カラオケ、飲食、テトの獅子舞、キーホア公園でのレクリエーション



依頼を受けた  
ところで獅子  
舞を踊る子供達

## 一 移動

「安全の家」へ:7人 (事務所から移転)

事務所へ :29人

職業訓練 :6人 (運転、バイク修理、理容)

他の場所へ :路上の女の子9人。売春させられたり、悪用されたりする危険があった。  
(8区暖かい家、コウ・ムイ・クラブ、タン・トゥオン・タイ暖かい家、ジェウ・ザック寺へ)

調査表作成 :8名

子供達の家庭訪問:26名

家へ帰った子:11名

仕事紹介 :3名

バイクチェーン製造所 2名

グエン・バン・ロク君(家族がない) ドイツ総領事館の駐車場管理人。日給、平均約50,000ドン(540円)。1ヶ月働いたのち1,000,000ドン(10,935円)の銀行口座を開いた。

預金している子供:10人[最高800,000ドン(8,775円)、最低10,000ドン(110円)。

このお金はそれぞれ、職業訓練や、日用品の買い物に使う。]

お金を支給:子供 4人、1家族

文化教育:5クラス(路上3クラス 42人参加、室内2クラス 10人参加)

学校へ:3人

事務所で(子供対象) 火曜日から土曜日まで、4時から8時。ボランティア2教師

「安全の家」で 14時から16時。

ヨーガ教室 15時から16時。8から10人参加。生活指導も行う。

絵画教室 月曜日19時から21時。まだ始まったばかりのため、参加者の入替わが多い。

パソコン教室 16時から18時。

## 4. 会計 :この4ヶ月間の支出は以下の通り。

1998年1月	12,166,780ドン	(133,650円)
2月	21,823,900ドン	(239,625円) テトの行事、タオダン6周年行事を含む
3月	12,478,040ドン	(137,025円)
4月	11,824,340ドン	(129,870円)

## 5. 総合評価

### 5.1

—行政当局、同種の各機関との協力

- ホーチミン市労働負傷兵社会部、青年協会、その他、子供達の性的被害阻止及び援助のための各社会活動組織の研究会、ワークショップへの参加
- 多くの活動参加者
- 子供の協力
- タオダンに出入りしている子供の家族、周囲の人々の支援
- スタッフの熱意、専門能力、日常的な訓練、ミーティング

## 5. 2 問題点

- 一度重なる場所の移動(借家問題)
- 年長の子供達の仕事探し
- 専門知識の不足
- 今後の活動計画、収入の確保法がない。
- スタッフの衛生、健康管理

## 6. 今後3ヶ月の計画

### 6. 1 特別目標

- 居場所を転々としている子供達の援助
- 麻薬使用、売春の阻止
- 路上生活をしている子供達の収入向上法の研究
- スタッフの訓練
- 家族、子供達 に活動への参加を呼びかける。

### 6. 2 具体的活動

日常活動の維持の他に、以下の問題に取り組む

- 事務所、「安全の家」のための借家探し
- 麻薬、売春問題に対するスタッフの教育、訓練
- 路上生活の子供達との接触時間を増やす
- 子供の収入向上法の研究
- スタッフの健康管理

以上

タオダン支援にご協力くださる方は下記にご送金ください。

口座名義はいずれも「ベトナム子供基金・タオダン支援」

郵便振替：00170-5-18054

銀行振込：富士銀行駒込支店 普通預金 1602525

## 1996年度青葉奨学会会計報告 (期間:1996年1月～1996年12月)

### 収支計算書

(単位:USドル)

収入	金額	支出	金額
基金収入 *	2,336.48	奨学金	11,856.00
利息		経費	14,261.63
収入計	2,336.48	支出計	26,117.63
前年度繰越金	45,012.15	次年度繰越金	21,231.00
合計	47,348.63	合計	47,348.63

### 支出内訳

(単位:USドル)

科目	金額	備考
奨学金	11,856.00	奨学生1月～8月132名、9月～12月251名
管理費	2,095.63	
その他	12,166.00	ミンハイ省学校建設、パソコン購入
合計	26,117.63	

\* 基金収入は子供基金からの送金 200,000円 = US\$1,855.00 と  
 里親がベトナムで入金 US\$ 481.48 の合計

## 1997年度青葉奨学会会計報告 (期間:1997年1月～1997年12月)

### 収支計算書

(単位:USドル)

収入	金額	支出	金額
基金収入	18,190.39	奨学金	23,640.00
利息	0.00	経費	6,272.88
収入計	18,190.39	支出計	29,912.88
前年度繰越金	21,231.00	次年度繰越金	9,508.51
合計	39,421.39	合計	39,421.39

### 支出内訳

(単位:USドル)

科目	金額	備考
奨学金	23,640.00	奨学生351名
管理費	3,311.44	
その他	2,961.44	ミンハイ省学校建設、台風被害修復
合計	29,912.88	

# 1996年度ベトナム子供基金会計報告 (期間:1996年4月~1996年12月)

## 収支計算書

(単位:円)

収入	金額	支出	金額
基金収入	5,419,996	基金送金	200,000
利息	460	経費	313,222
収入計	5,420,456	支出計	513,222
前年度繰越金	1,619,153	次年度繰越金	6,526,387
合計	7,039,609	合計	7,039,609

## 基金収入の内訳

(単位:円)

	里親基金		一般基金		賛助金		合計	
	参加者数	金額	参加者数	金額	参加者数	金額	参加者数	金額
4月	7	142,000	17	192,000	1	5,000	25	339,000
5月	5	1,122,000	2	24,000	1	404,717	8	1,550,717
6月	7	202,000	3	48,000	2	20,000	12	270,000
7月	6	252,000	4	70,000	4	337,000	14	659,000
8月	10	312,000	9	106,000	1	3,000	20	421,000
9月	18	373,000	2	22,000	0	0	20	395,000
10月	19	463,000	1	10,000	1	92,279	21	565,279
11月	12	242,000	8	109,000	0	0	20	351,000
12月	27	612,000	17	225,000	5	32,000	49	869,000
合計	111	3,720,000	63	806,000	15	893,996	189	5,419,996

## 経費の内訳

(単位:円)

科目	金額	備考
郵送費	152,780	
印刷費	58,901	
国際通信費	21,930	
備品費	30,588	
雑費	49,023	
合計	313,222	

## ボランティアスタッフ募集!

週2, 3回一緒に仕事をしてくださる  
ボランティアスタッフを募集しています。

# 1997年度ベトナム子供基金会計 (期間:1997年1月~1997年12月)

## 収支計算書

(単位:円)

収入	金額	支出	金額
基金収入	5,804,163	基金送金	2,281,100
利息	1,464	経費	1,171,483
収入計	5,805,627	支出計	3,452,583
前年度繰越金	6,526,387	次年度繰越金	8,879,431
合計	12,332,014	合計	12,332,014

送金内訳	2月17日	1US\$=125.5円	¥2,000,000
	9月19日	1US\$=123.4円	¥185,100
	11月19日	1US\$=127.3円	¥96,000

## 基金収入の内訳

(単位:円)

	里親基金		一般基金		賛助金		合計	
	参加者数	金額	参加者数	金額	参加者数	金額	参加者数	金額
1月	10	182,000	6	94,000			16	276,000
2月	7	222,000	4	46,000	3	26,150	14	294,150
3月	10	202,000	5	94,000			15	296,000
4月	9	154,000	6	70,000	5	26,440	20	250,440
5月	36	882,000	5	58,000	3	20,000	44	960,000
6月	30	602,000	5	56,000	2	9,504	37	667,504
7月	19	362,000	4	46,000	1	14,580	24	422,580
8月	20	442,000	10	132,000	9	107,000	39	681,000
9月	4	62,000	4	210,730	2	13,000	10	285,730
10月	12	392,000	1	12,000	3	29,759	16	433,759
11月	13	262,000	8	130,000	2	110,000	23	502,000
12月	24	504,000	8	124,000	3	107,000	35	735,000
合計	199	4,268,000	66	1,072,730	33	463,433	298	5,804,163

## 経費の内訳

(単位:円)

科目	金額	備考
郵送費	190,621	
印刷費	84,567	
国際通信費	17,851	
備品費	210,973	ホーチン事務局用ビデオカメラ、文具
スタッフ活動費	ホーチン事務局	127,284
	東京事務局	454,340
雑費	85,847	テープ起こし費等
合計	1,171,483	

## 青葉奨学会新方針のお知らせ

1. 大学生への奨学金支給は停止
2. 高校生以下も継続受給審査厳しく

ベトナム青葉奨学会代表のグエン・ドク・ホウエさんから上記の二つの連絡が入りました。

1. 青葉奨学会は、来年から大学生への奨学金支給を、原則として停止することになりました。もともと、青葉奨学会は小学生、中学生、高校生のための奨学金として発足いたしました。しかし、当初大学へ進学する学生は希でしたので、必要と認められれば、奨学金を高校から継続して大学まで支給する場合もありました。しかし、その数は徐々に増え、継続支給を受けている大学生の数は、現在13名に至っています。一方で、基礎教育を受けるために奨学金を申請する低学年生の数も増えていて、できるだけこの子達に支給したいところですが、「ベトナム子供基金」は現在、それほどの会員増を見込むことができないとのことです。このような条件では、大学生への継続支給はそれだけ低学年生への支給を圧迫することになります。大学生の場合も経済的には苦しいことが多いと思いますが、一応基礎教育は終え、アルバイトや他の奨学金を受給できる可能性もあるということで、今回の方針決定に至りました。

大学生や大学受験を目指す高校3年生の「里子」を持つ「里親」の方は、どうか青葉奨学会のこの苦しい決定をご理解いただきたく、「里子」が高校を卒業した後も、引き続き他の低学年の子供達をご支援くださいますようお願い申し上げます。もし、どうしても、現在の里子に支給を続けたいとお思いの方は、ベトナム子供基金事務局にお申し出ください。

2. 奨学金の継続審査が厳しくなります。青葉奨学会は、成績、素行等に問題がなく、家庭の経済状況がある程度以上好転していない限り、原則として継続が認められてきました。しかし、最近は奨学金の受給は当然というような態度が見えたり、決められた支給日に欠席し自分の都合のいい日に取りに来るなど、自分勝手な様子が目につく子が時折います。注意しても直らない子は、ベトナム人として恥ずかしい考え、態度を持つものとして、敢えて、奨学金の支給を中止し、その分を新規の奨学生に回したいと考えています。

奨学金支給中止とその理由はベトナム子供基金事務局を通じて、必ず「里親」にご報告し、ご質問にもお答えいたしますので、ご理解、ご了承くださいますようお願い申し上げます。

## ベトナム南端カマウの里子を訪ねて

吉田 勉

わたしの里子、BEN ちゃんは、ベトナム南端のカマウというところに住んでいます。現地青葉奨学会の脇平さんにアテンドしていただき、ホーチミン市から車で9時間、そこからボートに乗ってマングローブの小さな水路を約1時間のところに BEN ちゃんの家がありました。家は川に面していて陸路より水上交通の方がメインという所です。5人兄弟で、お父さんは足が不自由なのに遠くまで働きに出ています。電気は1年ほど前にようやく通じたということですが、飲み水は雨水を集めておいて使い、シャワーは川の水とのことです。貧しい中でも BEN ちゃんは弟や妹の面倒をみながら頑張っていました。

3年前にホーチミン市を訪れた時と比べて感じたことは、車が多くなったこと、シクロが少なくなったこと、そして建設中のビルディングが多いことです。一頃のベトナムへの投資ブームはやや下火になったとはいえ、工業化は着実に進んでいるのが分かります。反面、都市に住む貧しい子供達は工業化、近代化の中に取り残され、以前よりもっと過酷な状況に置かれているのではないかと心配します。以前わたしの里子だった UT ちゃんの家を訪ねましたが、彼女の家もスラムの中にあり、すぐ近くの高層近代的なビルディングと対称的に悲惨さが余計に強調される思いです。

それに比べてカマウは近代的な文化の波からはまだ程遠い存在ですが、マーケットには多種多様な野菜や果物が並び、魚、貝、えび、へび、亀など食材は豊富で食べることに困らないように見えました。何かここには近代化の波が来てほしくないという気にさえなりました。

昨年「子供基金」の寄付で設立された小学校も、ここの人民委員会の計らいで見学することができました。カマウの町からモーターボートをふっ飛ばして1時間半、やはり川に面した小さな村にありました。わたしが訪問したときは夏休み中で土曜日でしたが、小学校に上がる前の5歳児が、プレスクールのような勉強をしていました。50人ほどの子供が歌を歌ったりして、本当に楽しそうでした。日本と違ってベトナムはどこへ行っても子供が多く、出生率 1.39 人の日本からみるとうらやましい限りです。別の教室では、お金がなくて学校に行けない子供達を集めて補習授業をやっていました。ベトナムでも教育費は個人負担の部分が多く、貧しくて学校に行けない子供がいると聞いて意外な気がしました。校舎はお世辞にも立派とは言えませんが、子供達にとっては通学距離が大幅に短縮され、これまで学校に行けなかった子供が通学できるようになりました。今、211人の生徒が勉強しています。校長先生の話ではまだまだ学校は不足しており、文房具などにも不自由しているとのことでした。

日本の里親の皆さんにも一度ベトナムを訪問されることをお勧めします。里子の顔を見るとひとしお愛着がもてますし、また、大きく変貌を遂げつつあるこの国を今のうちに見ておくのも大切かと思えます。

(1998年7月21日記)



BEN ちゃん (中央) の家族と  
右端が筆者

## 事務局から

1. 「子供基金通信8号」をお送りします。

「通信6号」(97年11月発行)でホウエさんからご報告いただきましたが、青葉奨学会は今年、98年から会計年度と奨学金支給を1月～12月に統一しました。ベトナム子供基金もこれにともない、1月～12月で会計報告致します。今まで日常の事務処理に追われて、会計報告ができませんでした。誠に申し訳ありませんでした。96年3月までしか報告しておりませんでしたので、今回、子供基金と青葉奨学会の96年度、97年度分をまとめて報告し、98年度分については99年のなるべく早い時期にご報告いたします。

2. 子供基金の振替用紙を同封いたします。今年まだご送金いただいていない方は、この用紙でお送りください。すでにご送金くださった方にも同封してありますが、これは区別して処理することができないためです。悪しからず、次回にご利用ください。
3. 通貨危機は社会主義国ベトナムにもその影を落としベトナム通貨ドン(ドン)の価値も徐々に下がっています。今年はじめに1米ドル12,290ドンだったものが8月現在で14,000ドン程になっているとのことです。そのため青葉奨学会では、できるだけ日本国内に預金しておく方針です。98年前半の経費は他の団体(北陸ベトナム友好協会、沖縄青葉奨学会他)からの支援でまかない、後半をベトナム子供基金がまかなうことになっています。今年98年は、奨学生465名分、40,068ドル(約550万円)要請されており、1月19日に9,500米ドル(1,291,000円)、9月29日に20,000米ドル(2,741,000円)送金しました。
4. うれしいお知らせを一つ。既に半年経ってしまいましたが、2月20日付けで、前号この欄で触れた、ロンアン省ベンルック県で奨学金を辞退させられた子供たちが全員復活したという知らせが届きました。学校の依頼を受けてロンアン省奨学会がホウエさんを訪ね、奨学金辞退解除を申し入れ、再開が決まったということです。

## ベトナム子供基金会員募集

里親基金 年額 一口 20,000円	特定の「里子」に奨学金を支給する「里親」になっていただきます。 ベトナム青葉奨学会から子供と家族の履歴票が届き、子供と手紙のやりとりができます。	会費納入は次のところをお願いします。 口座名義はいずれも「ベトナム子供基金」
一般基金 年額 一口 12,000円	子供たち全体の「里親」という関係を想定しています。 子供基金通信によって、会の運営報告、子供の様子等をお伝えします。	郵便振替 00140-1-70399  銀行振込 富士銀行駒込支店 普通預金 1495745
賛助基金	一般基金に準じます。 金額、回数等、一切自由です。	